

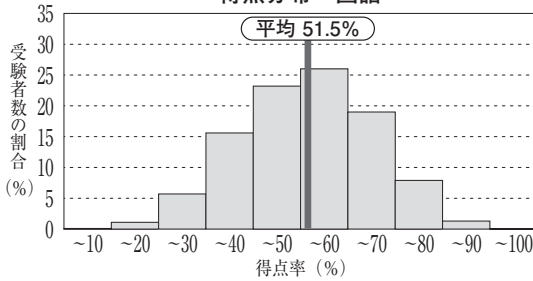
センター試験の国語の勉強をここから始めよう！

I. 全体講評

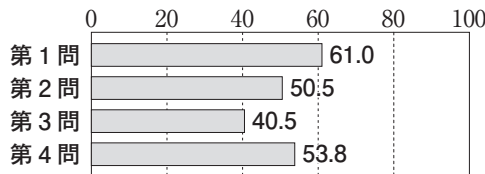
「第1回2月センター試験本番レベル模試」国語の平均点は一〇二・九点（二〇〇点満点）であった。これは、先月実施された「センター試験同日体験受験」と比べて6点程アップしていた。第1回としてはまずまずの結果であった。

センター試験の国語は、分量が非常に多い。た

得点分布 国語



大問別得点率 (%)



とえ、問題の難易度的には対応できたとしても、スピーディに解くことが出来ないと得点できない。努力を続け、学力を上げていくのは当然だが、1か月おきに実施される「センター試験本番レベル模試」で、実戦演習を繰り返すことで、ボリューム感と読解スピードも身につけていってほしい。「学力が身につけてから模試を受ける」と言う人がいるが、それではいつまでたっても模試は受けられないし、実戦力は身につかない。今回の各大問の得点率は上記の通りである。どの分野もまだまだ伸ばしていく必要があるが、第1問の評論は、今の段階としてはまずまずの結果であった。論理的な読解を意識して、さらに確実に得点できる力を付けていこう。第2問の小説は今回、もう一步の結果であった。小説は問題文によって、出来不出来のぶれが大きくなりがちである。今回得点出来た人も、客観的な読みをした結果であったかどうか、確認しておこう。古文・漢文の古典分野はどちらも、これから大きく伸ばしてもらいたい。そのためにはまず、読解の基礎となる知識事項、古文単語・古典文法、漢文の句法・重要漢字などをなるべく早く身につけよう。古典分野は知識事項を身につければ、一気に得点を伸ばすことが可能であり、逆に知識事項を身につけなければ絶対に得点を伸ばすことが出来ない

分野である。とりあえず短期集中で、春休みを利用するなどして一通り確認しておこう。

来年度のセンター試験まで一年を切った。二〇一八年の本試験は、前年同様平均点が低かった。来年、どんな問題が出題されるかはわからないが、どんな問題が出題されても得点できる国語力を身につけてもらいたい。「復習と結果の分析」↓「次の段階に向けての課題の設定」↓「計画的な学習による課題の習得」のプロセスを実行してほしい。そして、「わからなかった問題が解けるようになった！」という実感を模試を通じて得てほしい。着実にここから始めよう。

II 大問別分析

第1問 (評論)

センター試験特有の設問形式に慣れ、慎重に選択肢を吟味する力を育てていこう！

今回の評論の結果をみると、得点率は六割を超え、第1回の試験の結果としては、まずまずであったといえる。とはいえ、課題は多く残る。特に問5、問6の正答率は五割を大幅に割っており、3行選択肢の問題、不適当なものを選ぶ問題など、センター試験に対応した解き方に不慣れな受験者がまだまだ多い印象であった。

問1の漢字では、(ア)の「清算」と同じ「清」を用いるものを選ぶ問題だが、正答率は四一・三%で、「精算」だと間違えて④を選んだ受験者のほうが多い結果になった。「生産・凄惨・製産・成算」など同音異義語が多い熟語は要チェックだ。

選択肢を吟味する設問では、問3の正答率が五九・二%とやや低めだが、「イマジネールな身体」「リビドー」などの難しい用語が関わることを考えれば、初回としては健闘したともいえる。なお、この機会に、評論用語として重要なものは参考書などで確認しておこう。

今回、気になるのは問5の正答率で、わずか二七・四%にとどまっている。やはり3行にわたる長い選択肢は読むだけでも大変だ。ただし、センター試験の選択肢は比較検討しやすいつくりになっていることが多い。各選択肢の違いに目を向け、慎重に吟味していく方法を早くマスターしておきたい。③や⑤と誤答した受験者はもう一度解き、解説で、どこが違うのか、確認しておこう。

最後に問6だが、iの正答率が二六・三%で、これまた低調な結果であった。②③を選んだ受験者のほうが正解の①を選んだ受験者より多い。まだ精密な読解が十分ではないと考えられる。センター試験の過去問や「センター試験本番レベル模試」を利用し、数多く問題に取り組みたい。iiについては正答率五九・二%で、まずまずの結果である。とはいえ、③の誤答が目立つ。本文全体を俯瞰して、文脈を把握することはセンター試験だけでなく、読解の基本として必要なもので、ぜひ身につけておきたい読解法である。

第2問 (小説)

言葉の意味を調べるクセをつけよう。選択肢の吟味は二段階に分けて考えよう!

今回の小説は五〇・五%の得点率で、もう一步の結果であった。小説の問題を解くのにまだなれていないようだ。

問1は(ア)「無造作に」の正答率が二一・六%と極端に低く、誤答③「乱雑に」の選択率が六七・七%であった。なんとなく語感で選んでしまった人が多かったようだが、「造作もない」という語句は「たやすいことだ」という意味であることから考えれば、「無造作に」は「簡単に」という意味であることは想像できる。語感で本文に当てはまりそうな語を選ぶのではなく、言葉のものと意味に立ち戻るクセをつけることを意識しよう。

問2は正答率が七五・〇%とよくできていた。

問3は正答率五〇・三%で、難しかったようだ。誤答③を選んだ受験者が三六・三%もいた。一見して③を排除するのが難しい場合は、①③はいったん保留にしよう。②④⑤を排除したあとで①③を見比べ、より細かく検証するとよい。二択に絞ったあとで、両者を細かく検証するという二段階のプロセスを踏むと、早く、正確に解ける。

問4は正答率五四・六%でこれも難しかったようだ。この設問は「私」の心情変化を問うている。変化のポイントをしっかりつかんで選択肢を読めば、選択肢が長くても絞りやすくなる。

問5も正答率二七・四%でかなり難しかったようだ。何が「壊れてゆく」のか、根拠は本文中に書かれている。「肉体」とあるが、これは筆者の

肉体ではなく、「文明」「文化」の実体を指す比喩表現であることに注意しよう。

問6は正解2つの正答率がそれぞれ約五割弱であった。誤答⑥を選んだ人が四二・〇%もいたが、これを選んだ受験者は、解いたとき、選択肢だけでなく、きちんと本文に立ち戻って検証したかどうかを、振り返ってもらいたい。

第3問 (古文)

登場人物の行動と、人物と人物の関係を読みとろう!

「十訓抄」の、宮腹の女房に言い寄ったすき者の失敗談を描いた場面である。得点率は四〇・五%とまだ入口の段階である。

問1の語釈問題は、重要古語の意味だけにとらわれて熟語や助詞、文脈からの判断が不十分。(ア)は「ありく」はできているが「すき」を間違えた②への誤答、(イ)は「うるはし」はできているが打消の助詞「で」の解釈ができていない⑤への誤答、(ウ)は「あさまし」はできているが「ともおろかなり」が解釈できていない②・③への誤答が多かった。(ア)は四割、(イ)は二割、(ウ)は三割程度の正答率であった。

問2は「なり」の識別の問題で、決して難しくはないが、正答率は二割程度で苦戦した。誤答が多かったのはdの「参りつるなり」である。助動詞「つ」の連体形に接続しているので原則どおり断定の助動詞「なり」であるのに、aの「人來なり」と同じように、活用語に接続して見て目が似ているaと同じものと考えてしまった誤答が

三割もあった。文法問題は、絶対に落としてはいけない問題である。

問3は、人物関係と行動を把握する問題。道清と話した後、女房の使いである女官が中に入っていた状況を読み取るのだが、これは六割近い正答率でよくできていた。ただし、傍線部末の「立ちわづらひて居る」の主語を女官にした誤答が二割もあった。②④を選んだ人はよく見直そう。

問4は、女房の予想外な行動に驚く道清の心情を読み取る問題で、本文読解の肝の部分である。道清が驚いた直接の原因は、傍線部直前の女房の快活な声だが、そもそも文脈に合わない誤答③④⑤を選んだ人も、合計すると三割以上いた。

問5は、道清が退散することになった状況を説明する問題で、女房の行為が原因であることは六割以上の人が読み取れていたが、道清が自分から退散したのではなく、女房に嫌われて置き去りにされたことが読み取れず、三割の正答率だった。

問6は内容合致問題。正答率は四割を切り、誤答も分散した。誤答には、本文に書かれてはいるが動作の主体が正しくないものが多い。内容合致問題は、本文の該当する部分と必ず見比べるようになりたい。

第4問 (漢文)

貫珠が王に進言した解決策の意図と、その結果を読みとろう!

司馬光の『資治通鑑』から、人望のある田単の行為をほめることによって、その善を自分の教えであると人々に思わせることに成功した襄王の話

である。漢文の得点率は五三・八%で、第一回の模試としては健闘した。

問1の語の意味と熟語の問題は、aの「凶」が「企てる」意の「企図」で、誤答が全て「描いたもの」の意の「図」なのでわかりやすかったのであろう。八割を超える正答率であった。bの「称」は「かなう」意の「対称」で、正答率は一割にとどまった。「称」を「かなフ」と読めなかったのであろう。漢文の学習を通して、漢字のさまざまな意味を知ることが大事である。

問2は、語句の意味の問題。(1)は五割、(2)は四割の正答率であった。特に(1)は「以為」が「〜と思う」という意であることを知っていれば一発で答えが出る。(2)は「牛酒」を「宴会」ととるか「高禄」ととるかで二分し、誤答の「高禄」が正答を越えてしまった。

問3は、田単の善行を見た襄王の心配を読み取る問題で、よくできていた。誤答でやや多かったのは、側近たちが田単に寝返ることを心配した①であった。

問4は、書き下しの問題。「不如」が「如かず」であることは九割の人がわかっているようだが、「因りて以て己の善と為す」が難しかったようで、正答率は五割にとどまった。傍線部をどのように読むと文脈にふさわしい意味になるのか、本文全体の中に置いて文意の通る読み方を考えてみることも大事である。

問5は、襄王がなぜ国民の様子を見に行かせたかを問う問題で、まずまずの出来だったが、①・③・④のように田単の様子を見に行かせたと

した誤答も多かった。王の指示を受けた使者が、誰がどのように言うのを聞いたのかに注目しよう。

問6は、貫珠が、襄王にした助言の内容を問う問題で、正答率は約五割であった。田単の善行を放置せよと言ったとする②への誤答が目立ったが、田単の善行をほめたことで、田単の評判を利用することができたのだから、放置ではない。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆現代文は、語彙を増やし、センターレベルの文章に対応できる言葉の力を身につけよう!

現代文では学習についての認識を正しく持つことが大切である。漢字と語句は必須の課題であり、軽んじてはならない。読解では思い込みや自己流の勝手な想像を排した読みが必要である。

◆古文と漢文は、基本的な古語と文法、漢文の句法の学習を早めに、ひとつとおり済ませよう!

基本的な知識事項が問題読解のカギになることは今回の模試でも如実に表れている。必要な知識の習得は古文・漢文の重要課題であることを認識し、具体的な目標とスケジュールに即した学習を着実に進めることが何よりも大事である。